

令和4年度 第3回 静岡市立清水病院経営計画評価会議

- 1 日 時 令和5年3月13日（月） 19時00から20時40分まで
- 2 場 所 静岡市立清水病院 研修棟2階 講堂
- 3 出席者 【委員】6名
東野定律委員（会長）、河俣貴之委員、酒井知子委員、高山典子委員、
竹内佑騎委員、吉永治彦委員

【事務局】11名

上牧病院長、丸尾副病院長、宮城島看護部長、原田薬剤部長、
花村事務局長、大石病院総務課長、関病院施設課長、大瀧医事課長、
病院総務課 望月企画経理係長、小材主査、田中主任主事

4 会議録

司 会 只今より、令和4年度第3回静岡市立清水病院経営計画評価会議を開催
します。

静岡市では附属機関等の会議を原則公開することとなっておりますので、
当評価会も傍聴希望者がいる場合は、公開することとします。また、会議に
おいて発言した内容は、議事録としてホームページにて公開します。

続きまして、本日の資料を確認させていただきます。

（資料の確認）

司 会 本日は、委員改選後、1回目の評価会議となります。最初の会であり
ますので、事務局より、委員の皆さまの紹介をさせていただきます。な
お、委員の紹介は五十音順で紹介いたします。

識見を有する委員として参加いただいております、
公認会計士の

河俣 貴之（かわまた たかゆき） 様

市民公募委員の

酒井 知子（さかい ともこ） 様

同じく市民公募委員の

高山 典子（たかやま のりこ） 様

識見を有する委員の

株式会社竹屋旅館 代表取締役

竹内 佑騎（たけうち ゆうき） 様

同じく識見を有する委員の

静岡県立大学 経営情報学部 経営情報学科 教授

東野 定律（ひがしの さだのり） 様

最後に、識見を有する委員の

医療法人社団永仁会 吉永医院 理事長

吉永 治彦（よしなが はるひこ） 様

以上でございます。

それでは、今回新たに市民委員となりました、酒井様と高山様に、委嘱状をお渡ししたいと思います。お名前を及びしますので、前のほうにお越しください。

なお、識見を有する委員の皆様については、継続して委員を務めていただくことから、委嘱状は卓上に置かせていただきました。委嘱期間は令和6年10月末までとなっております。期間中よろしく願います。

それでは、開催にあたり、病院長よりご挨拶申し上げます。

（病院長あいさつ）

司 会 続きまして、議題の「（1）会長の選任について」になります。この会の会長は、「委員の互選により定める者」となっております。

委員の皆さまから、ご推薦、ご意見等はございますか。

吉永委員 社会福祉学が専門であり、あわせて介護保険や介護情報などの分野にも長けており、前任期においても会長として委員の意見をまとめてくれた東野委員に、引き続き会長をお願いしたいです。

司 会 委員の皆さま、他にご意見等がありますか。

(意見なし)

東野委員 委員の皆さまから推薦をいただきましたので、会長を務めさせていただきます。

司 会 それでは、委員の皆さまからのご推薦により、会長を東野委員にお願いしたいと思います。東野委員、会長の席へお願いいたします。
これより、会の進行は会長である東野委員にお願いしたいと思います。

会 長 それでは、これからの進行を務めさせていただきます。議題に入る前に、事務局より、本日の会議の進め方及び主旨について説明をお願いします。

総務課長 本日の会議全体における議題の趣旨等を説明します。
本日の会議は、経営計画の取組みを評価するための会議とは異なり、令和5年度以降の次期経営計画が策定されたことから、その内容を報告させていただくと同時に、令和4年度のこれまでの経営改善の状況について報告をさせていただく会議となっております。
報告をお聞きいただいた後、委員の皆様からは、清水地域の医療をどのように考えていくか、清水病院の今後の取組みについて忌憚のない意見をいただきたいと思います。

会 長 それでは、事務局の説明のとおり、議題（2）の「静岡市立清水病院経営計画について」から議題（3）「清水病院の経営改善に係る進捗状況について」まで事務局より説明をお願いします。

(資料1から4の説明)

会 長 今の説明につきまして、委員の皆さま、ご意見等はございますか。

吉永委員 計画の中にも記載されているが、医師や医療スタッフの人員の確保が課題となっている。事実として、葵区は医師が10万人当たり236人、駿河区は10万人当たり80人に対し、清水区は10万人当たり50人となっている。この課題は昔からだ。清水病院単独で解決できるものではない。

竹内委員 清水病院としての経営状況は改善に向かっていることが分かった。今

の社会情勢を踏まえると、今後経費は高騰していくということを財政シミュレーションの中で折り込んでおく必要がある。また、病院に務める職員に対し、やりがいを感じてもらえるようにマネジメントしていく必要がある。

次期計画についても、パブリックコメントを確認すると、4人に3人は計画に共感していることがわかる。一方で、難しくてわからないという意見は、もったいないと感じる。市民にもっと清水病院のことを知ってもらいたい。公共性と経済性の両立は難しいので、いかに市民に味方になってもらうかだ。広報の相手先をイメージする必要がある。

河俣委員 地方独立行政法人への移行については、まずは経営状況を改善させてから、それ以降という形になっているが、むしろ移行を早めたほうが経営改善につながるのではないかと思われる。

酒井委員 清水病院は清水区の中で一番大きい病院ではあるが、特色がいまいちわからない。清水病院の強みを、良さをアピールしてほしい。

高山委員 清水区にある大きな病院ということで、期待するところは多々ある。是非頑張っていてほしい。

会 長 新型コロナ病床の空床補償が今後なくなっていくが、そうになると病院運営として重要なのはベッドコントロールとなる。

また、医師も含めた人材確保に注力する必要があるが、それは清水病院単独では難しい。病診連携、病病連携が大事になる。そしてコロナ禍において様々なところで距離が出来てしまった。それはスタッフ間でもそうだし患者との間でもそうだ。これを徐々にもとに戻していく工夫をしてほしい。

総務課長 委員の皆さんにいただいた貴重な意見を参考にさせていただき、今回策定した経営計画を基に、病院運営を行っていきたい。

会 長 委員の皆さまから、その他に何かございますか。

(特になし)

会 長 それでは、以上で議事を終わります。

本日も活発なご意見やご提言をいただきありがとうございました。
それでは、進行を事務局に返します。

司 会 皆様、長時間にわたりありがとうございました。
それでは、以上をもちまして、清水病院経営計画評価会議を終了させていただきます。